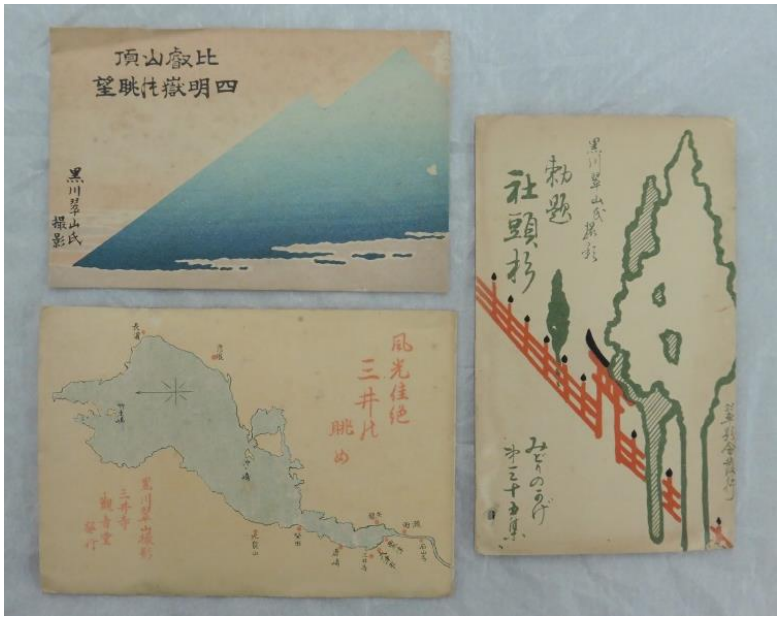
黒川翠山の絵はがき写真



当館には、黒川翠山に関係する資料として、ガラス乾板、掲載図書、雑誌、絵はがきなどがあります。その絵はがきの大半は撮影者不明ですが、「比叡山頂四明嶽の眺望」「風光佳絶　三井の眺め」「聖廟絵葉書」「みどりのかげ」第 26 集・第 35 集・第 36 集などは黒川翠山撮影と印刷されています。

「みどりのかげ」は、翠山とその弟子による翠影会の発行した絵はがき集です。第 26 集は黒川翠山の「雨後の漁村（近江小松）」、竹田翠里の「薪作り（山城雲ケ畑）」、吉崎芳翠の「霧の朝（京都加茂）」の 3 枚からなります。第 35 集は、黒川翠山の「春日の朝（大和春日神社）」「初日の出（大和大神神社）」「朝の加茂（京都加茂御祖神社）」の 3 枚です（※）。絵はがきの袋には次回の発行

日も記されていて、およそ月に 1 回程度発行されていたことがわかります。

日本では、絵はがきは 1900 年（明治 33）の私製はがきの認可にともない作られるようになりました。図柄は多種多様で、画家による絵はがき、写真による絵はがきなど、いろいろなものがありました。1900 年代から 1920 年代にかけて、絵はがきの図案の懸賞募集・展示会、絵はがき交換会などの多彩な催しも行われ、好事家の間で絵はがきが流行しました。

絵はがきの製作年を推測するには、通信欄の区切りの破線が一つの手懸りになります。郵便規則の改正により宛名面に通信文が書けるようになったことで宛名面の 3 分の 1 に通信欄を区切る破線を入れたものが 1907 年（明治 40）3 月 28 日以降、 2 分の 1 に破線のあるものが 1918 年（大正 7 ）3 月 1 日以降です。また、「郵便はかき」の文字が「郵便はがき」になるのが 1933 年（昭和 8）2 月 15 日以降になります。

「比叡山頂四明嶽の眺望」「風光佳絶　三井の眺め」「みどりのかげ」は通信面の 3 分の 1 に破線があることから 1907 年から 1918 年の間のものです。「聖廟絵葉書」（聖徳太子廟のある大阪府の叡福寺の絵はがき）は通信面の 2 分の 1 に破線があり、「郵便はがき」とあることから 1933 年以降のものと言えます。

※「みどりのかげ」第 35 集の「初日の出（大和大神神社）」に類似するのが、黒川翠山撮影写真資料 No. 1911

の写真です。これにより、この写真が大神神社(奈良県桜井市)での撮影とわかります。

「みどりのかげ」第 35 集
「初日の出(大和大神神社)」

黒川翠山撮影写真資料
No. 1911

（写真資料から 86　資料課　大塚活美）

（2018 年 1 月 5 日公開）